

参考資料 2

国際的動向を踏まえたオープン
サイエンスの推進に関する検討会
(第7回)
平成30年10月26日(金)

第6回 国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会

議事概要

1. 日 時：平成30年8月23日（水）15：30～17:30
2. 場 所：中央合同庁舎4号館2階 共用第3特別会議室
3. 出席者：（敬称略）

引原（座長）、喜連川（副座長）、有川、家、小賀坂、黒川、関口、高木、谷藤、林、村山の各構成員、上山総合科学技術・イノベーション会議議員、佐藤大臣官房審議官、梅澤参事官、赤池参事官

1. 議事

（1）事務局説明

事務局より、統合イノベーション戦略におけるデータリポジトリの整備・運用に係る取組等について説明があった。

（2）プレゼンテーション

谷藤委員（物質・材料研究機構（NIMS））より、同機構におけるデータリポジトリ及びデータポリシーについて説明があった。

（3）主な意見交換等

上記、事務局説明及びプレゼンテーションを踏まえた意見交換が行われた。

（データリポジトリの整備・運用について）

○機関リポジトリについては、情報関係の部署や図書館など多様な関係職員によって運営されており、データリポジトリについてもこれらの部署の協力を得たうえで整備を進めていくべきである。

○運営交付金等で運営されている大学等の機関リポジトリや、公的な機関が組織のミッションとして運営している分野別リポジトリについては一定の継続性が担保されているが、大型のプロジェクトなどによってできた分野別リポジトリは、資金繰りが難しくなり継続が難しくなることがあり、継続性をどのように担保していくかという問題がある。

- 分野別リポジトリと、機関リポジトリとを区別してそれぞれ整備を行うのではなく、それらが将来的には相互に連携・交流し合うような形を目指して整備が進められることが望ましい。

(NIMSにおけるデータリポジトリ及びデータポリシーについて)

- NIMSにおけるデータポリシー策定にあたっては、役員によって、知財、総務あるいは管理職、若手研究者、海外経験の豊富な研究者など様々な立場・役職の者が指名され、委員会を組織する形で議論を進めた。
- 材料データプラットフォームを運営するにあたっては、ナショナルセンターとしての責務や、データを管理する意義、戦略的な保管・利活用、データマネジメントプラントとの調和、他機関との連携によるデータの高付加価値化などを基本的な考え方としている。
- NIMSでは研究力の強化に結び付くデータや利活用のニーズが高いデータ、標準的なデータ、訴求性の高いデータ、多数のデータを収集することで付加価値がつくデータなどを保管・管理すべきデータと整理している。
- NIMSのオープン・クローズド戦略は、データの生産者が方針を決めることとし、材料データプラットフォームの価値を最大化し、NIMSの材料研究力の維持向上に資することを基本的な考え方としている。

2. その他

- 次回は10月後半以降の開催予定とする。